

第8回 北海道教育美術展審査会風景・委員長挨拶・地区別審査・  
審査事務打ち合わせ・入選決定・作品装丁作業・入賞作品写真撮影



目次	連盟のうごき……………2	実践校紹介……………7
	随想……………4	実践者紹介……………7
	人物往来……………6	クレヨン(入門期の指導)…8



# 北海道 造形教育 連盟報

発行 北海道造形教育連盟  
事務局 〒001 札幌市北区北24条西7丁目  
札幌市立白楊小学校 ☎721-4158

No. 65 1982. 5. 2 発行

# 連盟のうごき

## 56年度をふりかえって

### ■ 立体造形展

北海道の子ども達に立体造形の目を開かせ、心情的機能的な立体作品の美しさや夢を伸ばそうとする小中学生立体造形展も昨年度で第6回を数えた。

回を重ねるごとに各方面から高い評価と注目を集め昨年度は全道の小・中学校110校からこれまで最高の3,460点もの応募があった。

各地区の応募状況は下記の表のとおりであり、札幌と旭川地区の増加が目立った。

第6回応募状況 総点 3,460点

	札幌	旭川	函館	釧路	室蘭	計
小学校	565	647	247	320	474	2,253
中学校	553	246	98	57	253	1,207
計	1,118	893	345	377	727	3,460

この立体造形展は当連盟と読売新聞社との共催で、全道の小・中学生を対象に紙・木材・粘土など身近な素材を使ってユニークな着想そして丹念に仕上げる努力を養うことを目的としている。彫塑・工芸・工作などの作品を道内5地区ごとに審査・展示・表彰をしている。さらに各地区の優秀作品を対象に全道審査を行い、文部大臣奨励賞、北海道知事賞、北海道教育長賞などを授与している。

昨年度の全道審査は10月27日札幌のヨークマツザカヤデパートで行われた。いずれの作品も地区審査を経てきただけに力作ぞろいで、審査も長時間をかけた厳しいものになった。

審査基準としては

- ① 発想がユニークで夢があるか。
- ② 学年相応に丹念に努力されているか。
- ③ 学年相応の技法が駆使されているか。
- ④ 身近な材料がうまく使われているか。
- ⑤ 作品がていねいで美しく完成されているか。

などである。こうした観点から昨年度は、札幌市立八軒西小5年・片岡賢紀君が文部大臣奨励賞に、釧路寿小2年・高橋やすき君が知事賞に選ばれた。

全道各地区からご協力いただいた出品校に深くお礼を申しあげるとともに、今後の益々のご精進をお願いする次第である。



### ■ 教育美術展

第8回北海道教育美術展は12月26・27日の2日間造形連盟在札常任委員60名で手ぎわよく審査が行われ奨励賞100点、入選599点、準入賞297点が選ばれた。

昨年度は幼・保育園が多少減少したが2,344点、小学校8,560点、中学校1,153点といずれも前年を大きく上回る応募があった。出品校は全道各地から235校、応募総数は12,057点であった。

地区別には次の表の通りである。

	札幌	道南	道央	道東北	計
応募数	5,635	3,997	1,276	1,149	12,053
出品校	87	67	30	51	235

昨年度の特徴としては、全体的に色彩が豊かになって丹念に仕上げた作品が多かったこと、また、それぞれの地域から主題をとったものが多かったことがあげられる。その反面自由で伸々とした明快な作品が少なかったように思われる。特に幼稚園、小学校低学年の作品にパターン化された題材のとらえ方や技法に重きをおいた作品が目立ったのは反省しなければならない点であろう。

“もっと伸々と明快な”ということは主題の与え方、感じさせ方の指導者側の問題であろうと思う。また、

クレヨン等の描材がどう子どもたちのものになっているかも問題としていいのではないと思われる。

今年もこれら入選作品は全道各地の皆さまのご要望があれば、全道くまなく巡回し、子どもたちの目を楽しませ、あわせて指導される現場の先生方のために参考作品として活用されることになっている。大いにご活用願いたいと思っている。

全道各地区から作品を寄せられた皆様に厚くお礼申しあげるとともに今後ともこの教育美術展にご協力をお願いする次第である。



## 57年度の主な行事

本年度も昨年度と同じく、大きな行事としては、立体造形展、教育美術展、第32回全道造形教育研究大会を計画している。

### ■ 第32回全道造形教育研究大会

「見る・知る・感じる。そして創りあげる喜びを」という大会主題を設定し、室蘭では4度目にあたる全道大会を成功させるために、着々と準備を進めており会場も蘭東地区の中島小学校に決定している。定評あるチームワークですばらしい大会になることを期待している。

### ■ 立体造形展

昨年度と同じく10月にヨークマツザカヤで開催

### ■ 教育美術展

12月搬入、審査、1月東急百貨店で美術展開催と昨年通りである。

(事業部次長・札幌市立福住小教頭 鹿島 健)



故 野村先生に憶う

連盟顧問 高橋 栄吉

昭和57年1月18日粉雪まう夕方先生の赴報はまさに晴天の霹靂愕然沈痛の極みでした。暮れの迫る西円山病院で手を握って下さったのが最後でした。今でも亡くなられたことが信じられないほど身近な先生でした。

お年が80歳になっておられたことなど感じたこともなかった程あの長髪も艶々と濡羽色に黒く光り骨太の指でかきあげるたびに光る炯々とした眼ざし、彫り深いマスクに浮かぶ微笑、短身瘦軀飄々として歩く容姿に漂う畏敬の品格に教育者の威厳と芸術家の魅力が秘められていました。生涯と芸術教育に身を捧げた達観の境地を見る思いがいたしました。連盟大会、恒例の委員総会の帰途などよく道路の石ころや空缶をけとばしながら話しかけられる風貌には壮年の気概に圧倒されることが屢々でした。明治から貫き徹した美術教育者の気骨を見る思いがひしひしと感ぜられました。大正13年札師を出てから十勝の池田にその青春の想いをぶっつけた美術教育の世界は今日まで60年、札幌の東橋小に赴任した昭和13年隣の東小にいた小生が知ったのが野村凶画教室の会名でした。日独伊の美術展にその成果を挙げ、14年既に道展の会員21年には日本水彩画会の会員として北海道の自然をその流麗な彩管に托した画風は、大通公園の黒田永山将軍の銅像を描く日曜日の日ざかりによく見かけあの先生が野村先生かと眺めていました。爾来美育連盟造形連盟と24年の創立以来委員長として15年の創成期の本道美術教育界の一大飛躍充実発展に活躍され、峻厳秋霜を思わせる自己研鑽と芸術教育の精進は、透徹した教育実践の信念と芸術観を深めていきました。後輩の指導は峻烈ななかに豪快なあたたかさを内包し、愛情を注いでいただきました。真骨頂の発露ともいふべき人間野村の百面相は絶品の芸術で、ノートルダムお岩、カスベ、北キツネ、アンコウなど醜怪凄絶阿鼻叫喚の巻、呪詛恐怖の渦に巻きこむ圧巻、そのあとの微笑が忘れられません。瞑黙。

(札幌市中央区南16西13)



北海道造形連盟委員長 辻 悦平

その燃える心は子どもに美術の心を教えることであつたのかも知れない。夏休みも、冬休みも余り札幌の家には帰らなかった。他の教科も熱心に教えたように思うが、特に毎土曜の午後、毎日曜の午前中は必ず子どもを学校に集めて絵をかかせていた。

学校中の額が、これらの子供達の絵でうずめられていった。

その子等は現在50歳位のご婦人になっているが、今でも絵をかき続けている人、過去に何回か道展、全道展、その他の公募展に入選した人が多い。

■愛情・信頼感………(入隊と帰国)

18年の3月がきた。私は長髪を切りボウズ頭にした。子ども達の希望により、その切ったカミの毛の一部を全員の子供に少しずつ分けた。誠にふしぎな行動と思うかもしれないが、当時はそれが別れをおしむ者の自然の姿であった。教師と子どもは一体であった。

別れの折には体育館に集った1,300余の子供と先生方全員が泣いて私を送り出してくれた。40年たった今も胸がいたみ、時折そのことを想い出す。

入隊すると間もなく私は北支那に送られ終戦近くまでそのあたりで過ごしたが所属していた衣部隊は全滅に近いほどバラバラにされてしまった。

終戦後は北鮮を経由してシベリヤに送られて21年の冬、命を得て帰国した。

別れた子ども達は中学生になっていたが、ほとんどが私のカミの毛を持っていた。神棚にそなえ安全を祈ってくれたという。子もすばらしいが、なんと温かい父母達なのだろう。このような人間のふれ合い、信頼感があつたら……といつも考える。

■企画と実践と意欲………

帰国後は経済的に室蘭では食べていけず家のある札幌にもどってきて円山小学校に勤務する。

ここでも公開授業を引受けてみたり、仲間と絵本をつくって出版を企画してみたり、土曜の午後子供を集め今でいうクラブ活動のような、ひとこまを設定して絵を楽しんでいた。

この時も多くのよい絵がうまれ、当時の子供道展な

北海道造形教育連盟を心から愛し、これからも愛し続けるであろう者の一人として、私という人間の一角マを懐かしみ回想してみたいと考えた。

■ただ夢中で………

昭和17年に札幌師範学校を卒業した私は室蘭市の女子尋常、高等小学校に勤務することになった。

学生時代日独伊親善図画展に全国一位賞をもらった、道展に入選したり、卒業の年には大潮会展にも入選したりしていた。ともかくなんとなく絵をかいていたということである。

女子校に勤務した私は20歳であつたが、当時は21歳になると健康な男子はすべて軍隊に入ることが義務づけられており、18年3月には入隊することが決定していた。

戦争中のはげしい時代であつたので私は1年間の教員生活が終ると、もう命はないものと考えていた。だからこの1年間は担任の4年の子を相手に燃え続けた。他には何も考えなかった。

どに入選したり賞をもらったりしていた。

### ■多くの実践仲間とのめぐりあい……

23年春私は結婚し、24年春に住居の関係で琴似小学校に移る。

ここでは現在中央画壇や道画壇で活躍している会員各位や、その級の熱心な先生方7～8人と共に造形教育に取りくむことができた。めぐり合い、人の出会いとは面白いものである。展覧会に出すのが目的ではなかったが、ともかく道内の主たる賞や学校賞を独占した一時代があった。

### ■造形教育の理論の究明……(石狩教育研究所時代)

琴似小学校4年間の勤務が終わった頃、私は石狩の教育研究所に主任所員として迎えられ図画工作科基底編の編集業務や実験学校のあり方等についての研修に日夜あけくれた。

造形教育を含む本当の意味での勉強は、此の折身に付けたことが多く、私の生き方の大きな柱となっている。研究所の仕事で石狩の各地を巡り、道内の数箇所を巡り講演や説明をして歩いたが、これも私にとってよい勉強であった。しゃべって一番よく分り理解を深めたのが自分自身であったと思うからである。

### ■つくり出す心、うみだす心……

(新しい公募展の創立と退会)

この頃私は先輩や仲間にさそわれ、考えるところあって新しい公募展である新道展を生みだすことに賛同し、その創立会員となったが、又考えるところあって約18年位前に、この会を退会させていただいた。

ともかく造形教育を含む、教育一本に全神経をそそごとうと決意したことが実態であった。

### ■反省、思考、人の和と実践の仲間づくり……

琴似町が札幌市と合併し、私は西創成小学校に転任となる(38歳)。その後市内の学校5校に勤務させていただき現在に至る。この間20数年特に又多くの方がたのお世話になり、その実態は皆さん方のほうがくわししたので省略する。

————— \* ————— \* —————

夢中ですごした34～35歳当時までを回想させていただきました。こんな人間が造形教育連盟にいて造形の心を学校経営や学校運営の心としていたのです。

随想ということで、どんな内容でもよいとお話で

したので、すきなように書かせていただき、こんなこととなりました。

造形教育連盟の発展を心から念じ、お一人お一人のご健闘を心から祈っております。私は4月から札幌大谷短期大学(美術科)で先輩のお世話になりながら、わずかばかりのお手伝いをさせていただいております。

勇退なさるわれらの

### 辻 悦平先生を講えて

造形連盟が本道に根をおいて30年、大先輩の努力で今や前途洋々たる発展をとげている。その歴史の中にはいくつかのピンチがあった。

なかでも昭和46年から48年は、財政的に全くゼロ、地区組織の世代交代期、そして民間教育団体の乱れが重なり連盟遂に倒れるかという危機があった。

当時、事務局長であった辻先生は、常任委員会があるたびに、奥さんから50名の夕食代として〇万円を借りて会に臨んだという。とに角、年間30万の金が2年間も奥さんの財布を無利子で出たり入ったりして連盟の研究の息が繋がったのである。こんな事情も知らない我々は「また、ライスカレーか。」とか「今日は1本出ないの?」なんて困らせたものである。

わが子のように連盟を愛し、後輩を引き上げた辻委員長は、1千万円の全国大会を札幌でやり、「指導の構築」4・5集「造形遊び」を発刊し、教育美術展、立体造作展を生み育て、全国的にも高い評価をうけたのである。

その敏腕の冴えと卓抜たる運営にただ驚きと尊敬があるのみである。

「連盟の発展は、人脈と金脈を守り、減私奉公だよ。」この我等のゴットファーザーの言葉を忘れてはいけないと思う。

(連盟事務局長・札幌市立白楊小学校長 森川昭夫)

辻先生は57年3月31日付をもって39年にわたる教職を退かれました。2月24日札幌パークホテルで“教育功績者受賞祝賀会”が盛大に行なわれ、上文はこの時の槌から転載させていただきました。

(広報部)

受賞 北海道教育功績者表彰  
札幌市学校教育功績者表彰

## 人物 往来



### 造形展に思う

全道小・中学生立体造形展共催  
読売新聞北海道支社 左右田 忠

貴連盟と共催している全道小・中学生立体造形展も今年で第7回を迎えます。

私が引き継いだのは第4回からですが、前任者から資料を見せられた時には、正直なところこのような大事業、しかも絵や作文と違って立体的なものを各地で展示・運搬したり出来るものだろうかと少々途方にくれ、開催にあたり躊躇したものです。

4月頃の文書送りから始まり、11月頃まで確かに長

期に亘る催事です。が丹精こめたたくさん作品を目のあたりにすると、そんな苦労もふっとんでしまい、ただただ大切な作品を傷つけないよう、そしてこの造形展を通じ一人でも多くの生徒さんに物を創る喜びや丹念に努力する心を知って貰えれば——とそんな願いをこめながら部員一同作業する手にも一段と熱が入る次第です。もうすぐスタート、今年も素晴らしい展覧会にしたいものと強く思う今日この頃です。

### 凧きち先生15年



函館東高校 梅谷利治

五稜郭公園で写生の指導をしていたら「あれ、凧先生、先生は美術も教えるの」と目を丸くした中年婦人がいた。「無礼者、油水彩版画彫刻デザイン陶芸平面立体、なんでもござれの天才美術教師を知らんのか」と言おうと思ったがやめた。傍らの木にしばりつけておいた凧が、青空にくるりっと輪を描いたからである。

30年ぶりの同期会で会った旧友に「お前がいちばん

若いな」と昔の顔で言われた。おもいっきり、のぼした糸を引きながら、大空へ翔のぼった分身の凧と哄いあえるのは嬉しい。

ものを創る苦しみと楽しさを生徒たちに教えてやりたい。いや、教えるというよりも、一緒にその中で感激を味わいたいのだ。

美術という教科は、それが可能な場をもっている。それがなくなっては、つまらない。

### 小学校の時期に自然のにおいのするものに……



連盟胆振西部・伊達西小 笠原金一

最近の子どもたちには、指や手のひらや体を通しての表現活動は心身の発達に欠くことのできない活動である。だて西小では「子どもたちに集中する力をつけることによって、創る意欲と喜びをもたせるには、どうしたらよいか」を主題に彫塑学習をとおして、可塑性や触覚的に優れた土粘土を使い表現させ、子どもたちに楽しい造形活動の中で

見る力(理性)考える力(知性)感じる力(感性)やろうとする力(意志力)を育てあげていくためにも、小学校では少ない題材である粘土学習をとおして、私達は授業の中でもっとも主要な発想のくふうを中心に研究を進めてきた。子どもたちが豊かな発想と意欲的な表現をするための指導について授業研究をとおして過去三年間にわたり実践し、西小の教育に足あとを……。

### 初代 野村英夫委員長を悼む



連盟顧問 和田芳郎

野村先生が、1月18日午後3時25分、脳卒中の為永眠されました。享年80歳。先生は、造形教育連盟の創始者で、造形教育の振興と、本道水彩画壇に貢献されました。教員歴40年、札幌市立東小学校長を最後に退職されました。百面相は先生の余技で、とりわけノートルダム背むし男等は、迫真の熱演でした。人情家の先生は、同僚・後輩の面倒もよくみました。ここ2・3年前から足が不自由にな

り、西円山病院に療養されるようになりました。昨年「道展」鑑別の初日、急変倒られました。家族、皆様方の願いも空しく他界されたのです。葬儀は1月22日、札幌成田山で。これには、辻委員長初め伊東将夫、高橋栄吉種市誠次郎、遠藤久男、大類敏憲等造形教育連盟の現職の方々が無私無欲にお世話下され、大先輩繁野三郎氏が葬儀委員長をお引受下さいました。先生の風貌の中から慈愛溢るる眼差がいつまでも残ります。

## 実践校紹介

### 厚真町立鹿沼小学校

本校は全児童数24人で典型的な小規模校である。小規模校にありがちな、引込み思案で自己表現できない子どもたちを“生き生き発表し”“心から歌い”“からだ全体で表現する”そんな子どもたちに変容しようと過去3年間「ひびきあい、深まりあう指導の創造」を中心に据え、表現力豊かな子どもの育成のための研究実践を進めてきた。造形教育もその一環として実践してきたものである。

本校では、白と黒の世界に主題を設定し、捨てるか残すかという営みの中でこそ、子どもたちにより確かな表現力がつくと考え、古里教諭を中心に版画にとり組んできた先生方の日常の努力の結果、子どもたちの物を見る目が育ち、技術も向上し、各種の美術展・作品展で多くの入賞者を出したことは、とてもよろこばしいことである。

然し、何よりも版画を通して子どもたちが自分の生活を見つめ直してくれたこと、積極的に自己を表現できるようになったことが、最も嬉しいことである。



全道・全国美術展で全員入選のよろこび

私たち教師集団は、子どもたちの作品に（力強くのびのびと）（いきいきと大胆に）（楽しく子どもらしく）（明るく）（個性豊かに）等の願いをこめているが、それはとりもなおさず、子どもたちが、このように生きてほしい、このように育ってほしいという願いなのだ。

画家を育てるための造形教育でなく、生きる力を育てるための造形教育を、これからも実践していきたいと思っている

（文・鹿沼小学校 工藤 憲）

## 実践者紹介

### ひとりひとりの創造力を発揮させる名演出者

高谷 節子 先生

- ・室蘭市立知利別小学校勤務
- ・室蘭市教育研究会造形部研究委員

7月には、第32回全道造形教育研究大会が室蘭市で開かれます。研究テーマは、「見る、知る、感じる。そして、創りあげる喜びを」とし、対象を見つめる目や心を育てる手だてを授業過程に具体的に設定し、それが、表現力の活力となって進ような表現活動が営まれるような授業実践を提示したいものです。



ります。第23回大会の時には描画の授業で「わたしたちの先生」（2年生）を題材に、のびのびとしたわりペン素描を披露し、高く評価されました。第32回大会でも、目下授業予定者として、「造形的な遊び」の教科における位置づけと、その成果を実践研究しているところです。

ソフトな対話で、子どもたちの創造心を巧みにくすぐり乍ら、見事に創りあげさせる名演出にご期待ください。

（文・室蘭大会研究部長 母恋小 佐伯 進）

高谷先生は、その豊かな実践活動から、理論の構築に問題提起をし、自ら実践していく中で検証し、確かなものとしていく、常にフレッシュな授業実践者であ

# クレヨン —入門期の指導—

小学校に入学して、はじめて子どもが手にする画材がクレヨンである。それだけに入門期の指導をしっかりしておきたいものである。

## クレヨン (CRAYON)

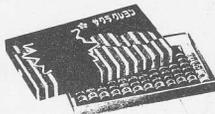
- パラフィン、木ろう、硬化ろう等に顔料を加え熱して溶解し、粒子をこまかくして型に入れ棒状にしたもの。またクレヨンの中で、ワックスヤシ油などを主原料とした質のやわらかいものをクレパス(PAS)と呼んでいる。

### クレヨン

塗りやすさとなめらかさを追求 / 低学年児童に最適



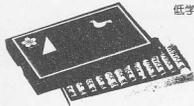
サクラクレヨン ふとまき 12色 300円  
18色 360円  
24色 500円



サクラクレヨン ふとまきハードタイプ 12色 320円  
18色 400円

### クレパス

混色、重色おもいのまま着色、発色、伸びが抜群 / 低学年から巾広く使えます



サクラクレパス ふとまき 12色 300円  
18色 360円  
24色 500円



サクラニュークレパス かかた 18色 600円  
24色 950円

## ① クレヨンの持ち方

鉛筆と同じく持ってかくのがいちばん楽に線をかきことができる。強い線をかくときはたてにもってかき広いところをぬるときは、折れたクレヨンを横にして持つとよい。またクレヨンは折れやすいので持ち方に気をつけさせたい。

## ② 線のかき方

- こい線……力を入れてかく。
- うすい線……軽くもってかく。
- 太い線……折れたクレヨンを横にしてかく。
- 細かい線……たてにしてかく。

## ③ 面のぬり方

- たてぬり
- よこぬり
- ななめぬり
- ぐるぐるぬり
- チョンチョンぬり
- かさねぬり(混色)

## ④ 色のまぜ方

クレヨンで混色するときは、必ず明るい色を先にぬり、その上に暗い色をぬり重ねる。



(西野小 1年 伊藤栄里子)

## ⑤ 後しまつ

使い終わったらクレヨンについてよごれは紙で拭きとり、箱の中の決められたところに必ずもどすように指導する。また箱に輪ゴムをかけておくと、ランドセルの中などでバラバラにならない。

(札幌・西野小 吉田倭雄)



株式会社 **サクラクレパス** 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目  
〒064 TEL (563) 5161(代)

## あとがき

原稿をお寄せくださった先生方に深く感謝いたします。次号は、室蘭大会参加者全員におとどけできるようにと考えています。

吉田倭雄(西野小)・富田 泰(南月寒当)・村谷利一(札苗中)・東志 隆(北辰中)・伊藤英世(新琴似緑小)